岐阜県知事

古田　肇　様

地域医療を守る東濃連絡会

多治見の地域医療の拡充を求める会
土岐市立総合病院の存続と充実を求める市民の会
東濃厚生病院の市内存続を求める会
恵那市の医療を考える会
中津川市の医療をよくする会

# 懇談会開催のお願い

県民の生活向上のため日々ご尽力いただき、心から敬意を表します。

ご承知のように岐阜県社保協は、今年度の自治体アンケートに、地域包括ケアシステムの進捗状況について、という項目を新設しました。

東濃医療圏５市の回答は以下のとおりでした。

**１，中学校区整備状況について、５市とも不明または無回答でした。**

**２，システム構築の課題として、かかりつけ医など１０項目の質問に対し、多治見市、土岐市、瑞浪市、中津川市は無回答でした。わずかに恵那市だけが、かかりつけ医、回復期病床、介護医療院、人材不足に○がつけてありました。**

地域の医療体制を、「病院完結型」から、「地域完結型」にするのなら、病床を削減する前に、住民１人１人の意向と生活実態に合わせて、医療、介護、予防、各種の生活支援サービスが切れ目なく提供される「地域包括ケアシステム」を実現すべきです。

さらに、東濃地域医療構想によれば、「現在の病床機能を見ると医療ニーズと比較して、高額な医療費を必要とする急性期病床が多く、逆に在宅復帰に向けた医療や、リハビリテーション機能を提供する回復期病床が不足しています」とあります。たしかに急性期病床は着実に減らされました。

しかし、不足していると指摘された回復期やリハの病床が増えるという計画は聞いていません。

住民が合意できる医療体制を構築して下さい。

新型コロナウイルス感染症は、はからずも公立・公的病院の重要性と、医師、看護師、介

護職員の人員不足、保健所の不足が明らかになりました。この背景には、９０年代後半続いてきた医療・介護・福祉など社会保障費の抑制や公衆衛生施策の縮減があります。

今後も新たなウイルス感染症や、自然災害の多発が予想されます。県民が安心して暮らせる社会実現のために、下記の事項について懇談を申しいれます。ご多忙中とは存じますが、東濃５市の代表が参加しますのでぜひとも実現させて下さいますようお願いいたします。

懇談事項

1，２０２５年目標の『地域包括ケアシステム』の具体的な姿（発症からリハビリテーション、在宅復帰支援までどのような病期にあっても、県民がどこでも安心して療養できる最善の医療を提供する体制）を示してください。

2，医師、看護師、介護士などの人材確保のための計画を早急に示してください。

3，計画作りの過程で県民の意見が反映される機会を設けてください。

4，地域医療構想に新型コロナ対策および新興感染症、広域の災害対策を加えてください

5，１年にわたる新型コロナ対策の中で医療機関の経営悪化が進んでいます。その保証を求めます。

6，第四波の緊急事態宣言を避けるために社会的ＰＣＲ検査の実施が必要です。早急な対策を求めます。

7，保健師と保健所職員を増員してください。

8，都道府県の保健所の数と機能強化するための施策を求めます。

以上